



# 名立区 地域協議会だより

【第43号】2022年10月25日発行

発行：名立区地域協議会  
編集：協議会だより編集委員  
事務局：名立区総合事務所  
総務・地域振興グループ  
電話：025-537-2121



地域によりそう

会長 原田 秀樹

当協議会では「地域活性化の方向性」について、名立区の特徴、地域資源、文化、様々な要素に対し対応可能なものを目指して協議を重ね、9月20日にこの方向性を策定しました。この方向性の根本に求められるものは、地域住民一人ひとりと、名立という地域により、そうものなればならないと思っております。方向性に基づく具体的な事業については、今後協議を進める中で深めていかなければと考えていますが、地域づくりの基本として認めていただけるよう、協議会委員の皆さんや地域の皆さんとともに、着実に進めていきたいと思っております。

今後とも、当協議会をよろしく願います。

地域活性化の方向性とは・・・地域協議会において地域の活力向上に向けた議論を進めるに当たり、特に重視したいこと、大切にしたいことを、地域協議会と市の間で認識を共有するために、市から各地域協議会に作成のお願いがあったものです。

## 名立区の「地域活性化の方向性」

### ◇推進目標◇

名立区の豊かな自然と歴史文化を活かし、次代を担う人を育て、地域で支え合う誰もが安心して暮らせるまちを目指していきます。

### ◇構成要素◇

- ・地域固有の資源（山・川・海 ほか）を活用した地域の振興
- ・歴史・文化の継承、平和を願う活動の継続・発展
- ・次代の名立区を担う人材の育成
- ・若い世代も一緒になったまちづくりの取組
- ・いつまでも安心して暮らすことのできる福祉の充実
- ・地域全体での支え合いの推進

## 地域活動支援事業活動報告～名立駅・マイ・ステーション作戦事業～

名立駅マイ・ステーション（MS）作戦

三浦 元二

MS作戦は平成23年8月に始まり、10年を超える取組の中、名立駅はJR西日本からえちごトキめき鉄道への経営移管や、現在地に移転して50年が経過するという節目を迎えました。

この間、地域の皆さんに支えられながら様々な活動を行ってきましたが、人口減少や高齢化に加え、コロナ禍の影響もあり、「名立駅の利用促進と名立駅を核とした地域活性化」という思いを持ち続けることの難しさを感じる時もあります。そうしたときに思い起こすのが、昭和39年の直江津・浦本間の長大トンネル化計画への反対運動です。名立駅がなくなってしまうことに対し、地域一体となって決起集会やデモ行進などを行った結果、名立駅が存続されることになったのです。

当時と時代背景や社会状況のほか、活動内容も異なりますが、「私たちの名立駅はみんなが守り、つなげる」という願いは同じであり、MS作戦を継続することで次代にそうしたい思いを伝えていかなければならないと考えています。




# 地域協議会と区内の活動団体との意見交換会を開催

「地域活性化の方向性」の作成や今後の名立区に必要な事業の検討を行うために、名立区内で活動している団体と意見交換を行いました。

また、市から「ろばた館の存続について」の意見書に対する回答があったことから、その報告と今後の方策について、ろばた館関係団体と意見交換を行いました。



(7月19日に行われた意見交換会の様子)

日付	題目	団体名	内容
7月14日	区内の地域活動団体との意見交換会【産業関係】	名立商工会、不動生産森林組合、上越市漁業協同組合名立支所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域活性化の方向性」の作成経緯についての説明</li> <li>・各団体の現状・課題や令和5年度以降の活動希望聞き取り</li> <li>・意見交換</li> </ul>
7月19日	区内の地域活動団体との意見交換会【福祉・教育関係】	社会福祉協議会名立支所、名立区住民福祉会、名立老人クラブ連合会、名立いきいきサロン運営協議会、名立の子どもを守り育む会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域活性化の方向性」の作成経緯についての説明</li> <li>・各団体の現状・課題や令和5年度以降の活動希望聞き取り</li> <li>・意見交換</li> </ul>
7月20日	ろばた館の活性化方策に関する意見交換会	上名立地区振興協議会、名立区住民福祉会、名立老人クラブ連合会、名立いきいきサロン運営協議会、折平芸能保存会、操美会、深雪加工グループ、ひまわり会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ろばた館の存続について」の意見書及び回答書の説明</li> <li>・ろばた館の活性化方策についての意見交換</li> </ul> 

## 意見交換会に参加して

二宮 香里

7月14日、19日に地域自治推進プロジェクトの一環として地域の活動団体の代表の方々と意見交換会を行いました。

お話を伺う中で、共通して課題となっているのが、人手不足と次代の人材育成ではないかと感じました。現在携わっておられる方々は大変熱心で、この熱意をどうにかして次の世代に渡したいと思いました。

例えば、名立の子どもを守り育む会は、予算が少ない中でも、関係者の協力のもと非常に精力的に活動されています。若い人がどうすればもっと社会貢献活動に参加するのかや小中学生だけでなく、保育園児も含めたスマホとの関わり方の啓発、若い世代の引きこもりや自殺対策も考えたいと仰っていました。

地域の宝である子どもたちのために、名立区を住みやすいまちにしたいと決意を新たにしました。

## 編集後記

収まるところを知らないコロナ禍。各種行事計画が中止縮小されている時節、区内でも三年ぶりに万全な対策をとり、名立まつりが開催された。

例年の子供神輿の巡行は無く、区内四方所で地域の特性を生かした前夜祭が催された。それぞれのブースには参加者を楽しませる仕掛けがあり、賑わった。本祭りも雨上がりの夜空を彩る大スターマインに歓声があがった。

金鳥の夏日本の夏が終わり、緊張の秋が来た。中川市長の方針で市政が大きく変わろうとしている。地域協議会の一員として緊張感を持って対応していく。

(編集委員 徳田 幸一)

